

★講演会を開催しました！

●「たたら研究最前線―石見・桜谷鉦の謎にせまる―」

令和6年11月30日に江津市地場産業振興センターで講演会を開催しました。50名が来場され、最新の発掘調査成果や文献から読み解かれた江の川下流域のたたら製鉄の様子などを熱心に聴講されました。当日の様子島根県公式YouTubeチャンネル（しまねっこCH）で公開予定です。



会場の様子



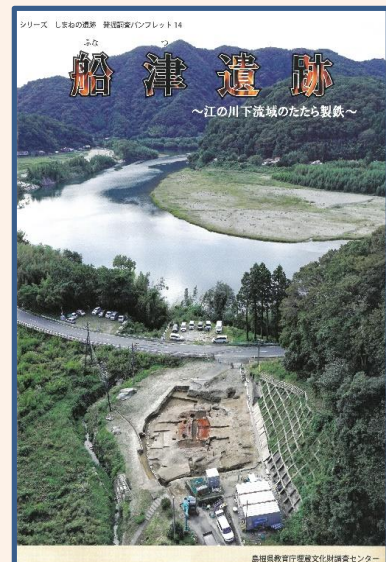
パネルディスカッションの様子

パンフレット紹介

シリーズしまねの遺跡パンフレット14

『船津遺跡』

シリーズしまねの遺跡では、いちおしの遺跡を分かりやすく紹介しています。今回は、江津市松川町に所在する近世の製鉄遺跡を取り上げました。江の川流域には船津遺跡のほかにも多くのたたら跡が存在し、良質な鉄が生産されていました。パンフレットは、当センターで無料配布しているほか、県内の図書館・文化財関係施設にも置いてありますので、ぜひご覧ください。



行ってみたいしまねの遺跡

にし たに ふん ぽ ぐん

西谷墳墓群(出雲市大津町)

西谷墳墓群は、山陰を代表する弥生時代後期の墳墓群です。出雲平野を眼下に見下ろす丘陵に位置しています。古墳を含めると大小合わせて27基のお墓が造られています。このうち、島根大学考古学研究室が発掘調査を行った西谷3号墓は、弥生時代後期の四隅突出墳丘墓で、突出部を含めると50mを超える大規模なものでした。



国指定史跡として整備された西谷2号墓

このお墓の中心の埋葬施設には、鉄剣をはじめ、中国から渡来した青色ガラスの勾玉や管玉が供えられ、大量の水銀朱が棺の床面に敷き詰められていました。さらに、墳丘上からは、吉備や丹後、北陸の土器も供えられていました。このことから、国内のみならず、遠く中国・朝鮮半島にも交流のチャンネルを持つ実力者とその一族が葬られていたと考えられています。

現在、西谷墳墓群は史跡公園として整備され、出土品は弥生の森博物館に展示されています。

問い合わせ先：出雲市文化財課 0853-21-6893

わかりやすい！島根県の埋蔵文化財情報が満載！

島根県の埋蔵文化財情報誌

web版 No.4

ドキ土器

2025年春

まいぶん

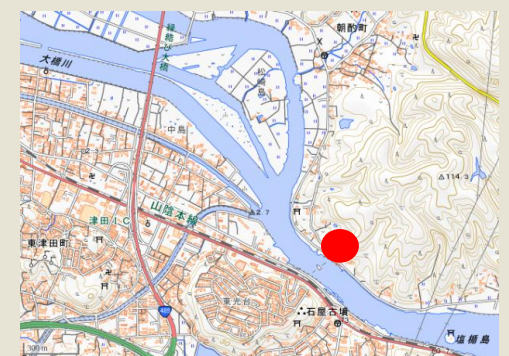


朝酌矢田Ⅱ遺跡の四隅突出型墳丘墓

大橋川を見下ろす古代交通の要衝に築かれた墳丘墓

①朝酌矢田Ⅱ遺跡(松江市朝酌町)

朝酌矢田Ⅱ遺跡は、大橋川を南に見下ろす標高13mの丘陵上に位置しています。この遺跡からは、弥生時代後期に築造されたと考えられる四隅突出墳丘墓が見つかりました。後世の削平等により墳丘の残りは良くありませんが、列石や貼石が確認され、墳丘の規模は突出部を含めて10m以内の小型の四隅突出墳丘墓だと考えられます。また、墳頂部からは埋葬施設が見つかっており、この埋葬施設には、ガラス小玉のほか錐の可能性のある鉄製品が副葬されていました。この墓に葬られた人物は、大橋川の水運にも関わったこの地域一帯の有力者であった可能性が考えられます。



遺跡の位置

島根県の埋蔵文化財情報誌

ドキ土器

まいぶん

web版 2025年春号

編集・発行

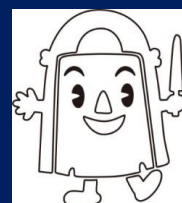
島根県教育庁埋蔵文化財調査センター

〒690-0131 松江市打出町33

TEL.0852-36-8608 FAX.0852-36-8025

E-mail.maibun@pref.shimane.lg.jp

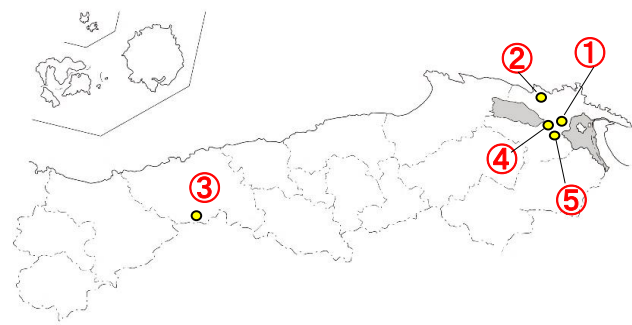
<https://www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/>



※遺跡位置図は国土地理院発行1/25,000地形図を使用

島根県の最新発掘情報

令和6年度 発掘調査ガイ



■掲載した遺跡についての問い合わせ：島根県埋蔵文化財調査センター TEL 0852-36-8608

島根半島最大の前方後円墳

②堀部1号墳(松江市鹿島町)

堀部1号墳は、松江市鹿島町の講武平野北側の丘陵上に位置します。堀部1号墳を含む堀部古墳群は、島根大学考古学研究会による測量調査などで、12基の古墳で構成されることが明らかとなっています。2004（平成16）年に鹿島町指定史跡（現・松江市指定史跡）に指定堀されました。今回の発掘調査により、堀部1号墳は全長70mの前方後円墳であることが確定しました。また、埋葬施設が後円部墳頂部に1基存在することも明らかとなり、竪穴式石槨の可能性ががあります。出雲地域の古墳時代前期の様相の一端を示す貴重な成果を得ることができました。



後円部の墳頂



遺跡の位

中世の製鉄遺構を確認

③船津遺跡(江津市松川町)

船津遺跡は、江の川下流の河岸段丘上に立地する遺跡です。昨年度の発掘調査では、江戸時代のたたら製鉄の作業場が見つかりました。今年度の調査では、この下層から、中世（13～16世紀頃か）の製鉄遺構が見つかりました。中世の製鉄遺構は、同じ場所に盛土をして地下構造を造り直していたことが明らかになりました。

また、16世紀後半には、中世の製鉄炉から排出された鉄滓を含む造成土面に墓地が営まれていました。調査区内からは3基のお墓を発見しましたが、周辺では中世末から近世初頭の石塔も多く知られています。このことから、近世のたたら場の造成によって墓地が削平された可能性が高く、さらに多くの墓地があったと思われます。



中世の鉦跡



遺跡の位

町の発展を示す遺構・遺物を確認

まつえ じょうかまち いせき しらかた ちく

④松江城下町遺跡白湯地区(松江市白湯本町・八軒屋町・和多見町)

松江城下町遺跡白湯地区は、宍道湖から東に流れる大橋川の南岸に位置しています。今年度の発掘調査では、近世の遺構と多種多様な遺物が確認されました。出土遺物の時期は15世紀後半から19世紀まで幅がありますが、大半は17世紀初頭以降のもので、青磁や白磁の碗などの輸入陶磁器、唐津焼の碗や皿、備前焼播鉢や壺、古瀬戸皿などの国産陶磁器、羽口や鉄滓などの鍛冶関連遺物、秤の竿や分銅、古銭、鉄製の釘、提灯の金具などの金属製品、石臼などの石製品、漆塗りの椀、下駄などの木製品、魚骨や獣骨、貝類などの動物遺存体等、多様な遺物が出土しています。

遺構は、町屋の区画を示す石列をはじめ、庭の池跡や水琴窟なども見つかりました。また、今回の発掘調査で確認された最も古い遺構は17世紀初頭以前にさかのぼる大型の杭で、城下町成立以前の橋跡の可能性が考えられます。



町屋を区画する石列



調査区遠景（北東上空か）



遺跡の位

政庁を区画する土手状の高まりと二本の溝を発見！

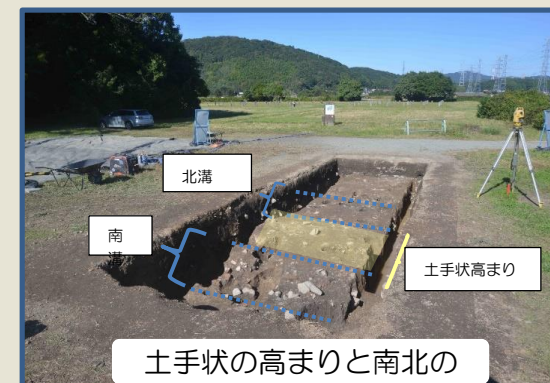
しせき いずも こくふ あと

⑤史跡出雲国府跡(松江市大草町)

出雲国府は奈良時代から平安時代にかけて、出雲国の政治の中心地でした。今年度も政庁正殿の東側を発掘調査し、整地土や基盤層に関する情報を得ることができました。古代に整地がおこなわれたのは8世紀後半～9世紀前葉とみられ、政庁域の主要な建物が掘立柱から礎石へと建て替えられた時期に当たります。今回の調査では、この整地面から正殿に向かってのびる土手状の高まりとそれを挟むように掘られた溝が検出されました。この土手状の高まりは、正殿に至る東西方向の通路、あるいは政庁域を区画する施設の跡の可能性が考えられます。今回の発見は、国府中枢域の遺構配置を検討する上で重要な手がかりとなりました。



遺跡の位置



土手状の高まりと南北の